

## 愛・マテリアル博 2008 マテリアル・アート展

知能生産システム工学科マテリアル系 木下 優 担当教員：横井 裕之

### 1. プロジェクトの目的

「材料」はあらゆる産業の基盤となっているが、最終製品のみが社会へと出されるため、人々に意識されにくい。一般の方や高校生、他学科の学生たちに「材料・素材」の面白さを知ってもらうため、我々が普段の研究で得た写真をもとに材料を学ぶ面白さ、材料の魅力を感じてもらうことを目的とし、毎年夢化学探検で「マテリアル・アート展」を開催している。

昨年度は材料の形態や組織を中心に見せていたが、材料の知識がない一般の方には身近に感じにくいという意見があったため、今年度はわかりやすいアート展を目指した。材料を理解しやすいように製品に行き着くまでの流れを意識した展示を行い、また、写真だけでなく実際に光学顕微鏡を用いて実物の展示を行った(図1)。

### 2. 実施方法

本プロジェクトの写真作品は、研究室における日々の研究活動から生まれてくるものであり、マテリアル工学系の学生すべてが参加者の意識を持って作品作りに取り組んだ。すべての作品に一言コメントをつけ、材料を作製するプロセスの違いで様々な顔つきが生まれることを紹介した(図2)。

写真展は、コンテスト方式で来場者による投票を行い、ベストフォト賞を選んでいただいた(図3)。また、写真展の感想やマテリアルに対する関心についてアンケート調査を行った。これより、どのくらいマテリアルの魅力を広めることができたかをはかる。

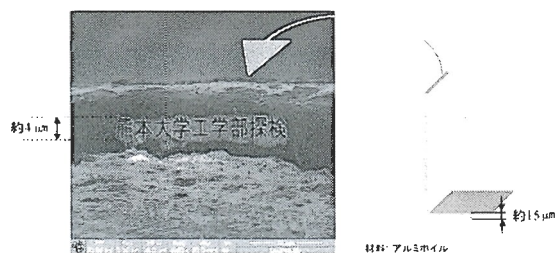


図1 光学顕微鏡を用いての展示

試料の薄さを実感していただいた後に、光学顕微鏡で実際に原子をとばして彫った文字を見ていただいた。

### 3. 成果報告

展示の場所を研究棟Iの一階のロビーで行うことで来場者に気軽にマテリアル・アート展を見ていただけたと感じた(図4)。また、「材料に興味をもてた」、「大きな製品も小さな部分が大切だということがわかった」など、今回の趣旨にあった意見をいただくことができた。

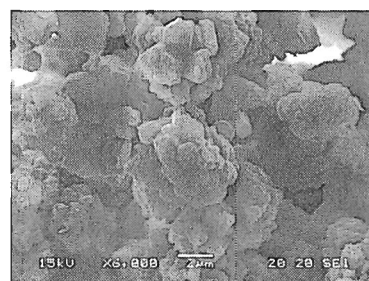


図2 マテリアルフラワー

(この写真はある液体から作ったものです。いつもは水が凍ったときのように規則正しい結晶を作りますが、ときには花のような形をとることもあります。)

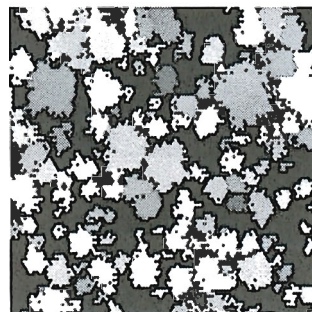


図3 ベストフォト賞受賞作品  
「インベーダーゲーム？」

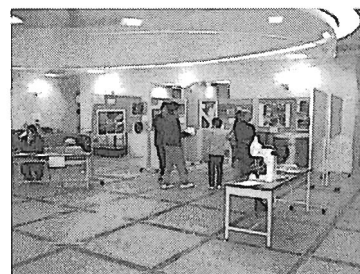


図4 展示風景